

本には、読書には、
 自分を、人生を、世界を、未来を、変える力があります。
 本の中には自分の人生を支える柱となる言葉や、行動する勇気をくれる言葉、
 ときには、自分を癒してくれたり、あるがままの自分を認めてくれる言葉があり
 ます。本の中で強く、やさしく、かっこいい言葉に出会うことができます。
 読書は自分を磨き、豊かに生きていく力を与えてくれます。人生を豊かにする「習
 慣」としての読書は、君たちにとって必要不可欠なものです。読書は、してしま
 なくともいいものではなく、誰もが、ぜひとも身につけるべき スキル『技』な
 のです。読書は、自分の世界を広く、深くしてくれます。

いい本に出会うと、自分が世界を見る見方や角度、価値観が変わります。
 これこそ本の力です。「いい本」とは、読む前と読んだ後で、目の前の景色が
 違って見えたり、世界が美しく見えたり、新たな価値観をくれたり、心を強く
 してくれたり、自分の可能性に気づかせてくれたり、新しい世界を見せてくれ
 たり、人に対して優しくなれたり、人間の素晴らしさを教えてもらえたり、今
 まで気づいていなかった幸せに気づかせてくれたり、未来は明るいと感じさせ
 てくれたり、自分の人生を何に使うのか教えてくれたり、自分の内側からやり
 たいことがあふれてくる・・・そんな本です。

読書で、自分の感性が磨かれ、想像力・創造力が豊かになります。
 読書はイメージの冒険です。読書は旅です。君はどこでも行けます、何にでも
 なれます。自分だけしか行ったことがない世界を経験できます。たくさんの人
 生を経験できます。登場する人物と共に生きていく。「運命の人」「魂が震える
 ほどの人」と出会うことができます。主人公が「生きる勇気」をくれます。
 本の中には、世界中のいろいろな時代のすごい人たちの生き様があるのです。

読書で、多くの言葉を知り、語彙力・読解力・表現力が高まります。
 本は言葉を使って表現されています。読書によって、多くの言葉を知り、さま
 ざまな表現に触れることで、思考も深くなり、自分を表現する技も磨かれてい
 きます。感情を表現する言葉を身につけることで、君たちは人生で起こる出来
 事に対して、より細かく思考を巡らせることができるようになります。そのこ
 とが、よりよく生きるということなのです。言葉の数だけ人生に深みと味わい
 が増していきます。大学受験の小論文対策にも読書習慣は効果抜群です。

さあ、次の一冊を選びに、図書館に行こう!
 本には様々なジャンル(哲学・心理学・自己啓発・歴史・地理・社会科学・社
 会福祉・自然科学・技術工学・芸術・産業・言語・文学など)がありますが、
 それぞれのジャンルにはそれぞれのよさがあり、学びがあります。図書館の本
 たちが、君たちを待っています。まずは「この本は、おもしろそうだ」「この
 本は自分の役に立ちそうだ」という直観を信じて本を選んでください。

《1日10分読書。月1冊読破》から始めよう。
 1日のスキマ時間、昼休み、放課後、自宅で寝る前などに10分読書しよう。
 そして、月に1冊読破しよう。夢中になれば一気に読んでください。
 そのうち、1日30分読書。1週間で1冊読破も可能になってきます。
 読書する中でインプットしたことをアウトプットする。
 読書しながら、「すごく大事」「心が動いた言葉」などに付箋を貼っていきま
 す。そして、好きな文章を三つ選んで引用して記録しておきます。そうする
 ことで、読書で得たものがしっかりと自分の中に蓄積されます。(インプット)
 そして、アウトプット=人に伝えることで、読んだ本の内容が自分に定着する
 のです。そして「おもしろい!」「もっと知りたい!」と、「深める読書」に
 つながっていきます。ワクワク楽しい読書ライフが続いていくことでしょ
 う。

「心が動く」瞬間があれば、読書は10分だってOK!
 今こそ 本の世界への扉を開こう!

★きみに出会ってほしい本★

『また、必ず会おうと 誰もが言った。』喜多川 泰/著



主人公・秋月和也は熊本の高校に通う17歳。ひょんなことから、単身、ティズニールランドへと行く羽目になる。最終便の飛行機に乗り遅れてしまう。所持金は3400円。「どうやって熊本まで帰ればいいん・・・」途方に暮れる彼に「おい!若者」と声をかけたのは、土産物売場で働く1人のおばさんだった。一人生を考えた高校生に大人たちが語りかける、少年は一生忘れることのない思い出を手にした。

『手紙屋 蛍雪篇 喜多川 泰/著 ~私の受験勉強を変えた十通の手紙~』



進路のことで悩む高校2年生の内田和花は、兄から紹介された「手紙屋」という人物に手紙を出す。手紙屋からの一通目の手紙は、「これからのしばらくの間、勉強をするのをやめてほしいです」という衝撃の言葉から始まります。そして十通目の手紙『今日一日の勉強が、将来の世界を大きく変える』まで一通一通の手紙から和花は多くを学んでいく。「何のために勉強するんだろう?」「何のために大学に行くんだろう?」

『スタートライン 喜多川 泰/著 一步踏み出せば軌跡は起こる』




将来に漠然と不安を抱いていた大祐の前に現れた、東京からの転校生、真苗。彼女と仲を深めるうちに、大祐の将来への考えも変わっていく。今の自分にできることで、自分の価値を判断しちやいかん。五年後の自分の可能性を舐めるなよ。「18歳のぼく」と「18歳のわたし」が五年後に見つけた「将来」とは?夢に向かって挑戦する勇気をくれる物語。

10分読書・月1冊読破をはじめの人に
 読書が楽しくなる
ブックカバー+しおりを
 プレゼントします!
 期間 10月28日~11月29日


11月20日(水)15:40~16:20
ビブリオトーク
 おすすめ本を紹介しよう。
 感動した本を発表しよう。
 アウトプットの場です。
 参加者募集!

『君と会えたから・・・』 喜多川 泰/著



もし「明日」が無限にあるわけではないとしたら、あなたは「今日」をどう生きますか？無気力な夏休みを過ごす男子高校生ヨウスケの前に突然、現れた、不思議な女の子ハルカ。彼女が彼に伝える「人生を変える7つの教え」会えるのはいつも1時間程。教えのキーワードを書いた折り紙で作る紙飛行機。二人が交わした、ある「人生の」約束の物語。

『ソバニールヨ』 喜多川泰/著:




勉強が嫌いで、周囲の目ばかりを気にして日々過ごしている隼人。さらに、些細な出来事がきっかけで、仲の良かった友達との関係がもつれ、孤立することになってしまった。ある日、自分の部屋に帰ると、そこには見慣れぬ大きな物体が。それは、長期間不在になった父親が残っていたロボット・ユージだった一。

『One World みんなが誰かを幸せにしているこの世界』 喜多川 泰/著




少年野球、サービスマン、卒業式、バレンタイン、超能力、就活、日本、出稼ぎ、恋愛。異なるテーマの9つのストーリーに登場する主人公たちは、人との出会いを通して生きるヒントを学び、新たな自分へと成長していく。各登場する人物が少しずつ重なりあう物語は、まさに、いま生きている世界そのもの。生きる力が湧いてくる作品。

『株式会社タイムカプセル社 十年前からやってきた使者』 喜多川 泰/著




45歳の英雄は、株式会社タイムカプセル社という風変わった会社で働くことになる。未来の自分に向けて書いた手紙を、数年～数十年後に配達することを事業とする会社だ。さまざまな事情で配達不能になった人たちに直接手紙を届けに行くというものだった。大阪、北海道、ニューヨーク。各地で手紙の受取人と出会い、それぞれの人生に触れていく中で、英雄は自分の本当の気持ちに気づいていく。

『心晴日和』 喜多川 泰/著




クラス的女子からいじめられ、孤独を感じている14歳の美輝。ある日病院で出会った井之尾という不思議な老人に、「自分のかわりに春を感じるものを見つけて写真に撮ってきてほしい」というお願いをされる。言われるがままに外に出てみると、美輝は今まで殺風景だった通学路に春があふれていることに気がつくのだった。道ばたに咲いている花、車のボンネットで昼寝をする猫、河原で野球をする少年たち。心が晴れた記念日一その日が美輝の心晴日和になった。小さな心がけ一つで幸、不幸はコントロールできる！“絶望”が“希望”に変わる奇跡のストーリー。

『ライフトラベラー』 喜多川 泰/著



「人生を変える旅をしたい。」と言う、大学生の和哉に、親友の夏樹が提案したのは、「ほとんどすべてがく自由>なく不自由な旅>だった。夏樹の口を通して語られる数々の宝石のような言葉。なぜ、夏樹はそこまで、<人生>という旅を価値あるものにする知恵を持っているのか？その謎が明らかになる後半には、読者の人生をも変わる秘密が隠されている。「やりたいことの有無に関係なく、いま、目の前にあることに本気で取り組むんだよ。そうすれば自由な大人になれる。」

『難問の多い料理店』 結城真一郎/著



ヒーローイーツ配達員として日銭を稼ぐ大学生の「僕」は、注文を受けて向かった怪しげなレストランで、オーナーシェフと出会う。彼は「お願いがあるんだけど。報酬は1万円」と提案する。僕はそれに乗ってしまった。そうして多額の報酬を貰っているうちに、僕はあることに気づく。どうやらこの店は「ある手法」で探偵業も担っているらしい、と。

『夜空にひらく』 いたうみく/著



暴力事件を起こし、家庭裁判所に送致され試験観察処分となった鳴海円人。補導委託先には煙火店を営む一家が選ばれた。同じ屋根の下で暮らし、自分の居場所を見つけていく。「ハマられて罪を犯した少年が、裏切りたくないと思う人との出会いにより、過去を当り前に抱えて生きていく」と歩み始める物語。「物語というのは、自分ではない誰かの人生を疑似体験できるのが素晴らしい。まさにそれを実感できる。」

『秘密結社 Ladybird と僕の6日間』 喜多川 泰/著:



勉強も部活も恋も、何もかも中途半端な18歳の少年が出会ったのは、鳥肌が立つくらい本気になって今を生きている大人たちだ。「生きることがつまらなかった。だけど僕は、あの日あの人たちに出会って、自分との約束を守る大人になると決めたんだ。」

『告白撃』 住野よる/著




三十歳を目前に婚約した千鶴は、自分への恋心を隠し続ける親友の響貴に告白させるため、秘密の計画を立てていた。願いはひとつ。彼が想いを引きずらず、前に進めるようになること。〈告白大作戦〉は予想外の展開を見せー。ものわりのいい私たちを揺さぶる、こじれまくった恋と友情。

『ピリオフォリア・ラブソディ あるいは本と本の間の旅』 高野史緒/著



読書に関する特殊な法律が課された世界の作家。正確に訳すことが限りなく不可能なマイナー言語の日本で一人の翻訳者。あらゆる小説を斬りまくる文芸評論家が出会った本。元「天才美人女子大生」詩人のたったひとつの願い。「本の魔窟」に暮らす蔵書家が訪れた不思議な古本屋。本にまつわる5つの物語。

『ぼくらは回収しない』 真門浩平/著




数十年に一度の日食が起きた日、名門大学の学生寮で女子学生が亡くなった。密室状態の現場から自殺と考えられたが、小説家として活躍している彼女が死を選ぶだろうか？三年間をともに過ごしながら、彼女と理解し合えないままだった寮生たちは、独自に事件を調べ始める一。

『下町サイキック』 吉本ばなな/著




「友おじさん、どうして人は色とかお金とかに目がくらむの？」 「人はいつだって、今の人生をとにかく変えたいと思ってるからだよ。」目に見えないものが見える中学生のキヨカと、近所に住む友おじさんの、ささやかだけれど大切な連帯。暮らしの哲学長編！

『高校生活の強化書』 西岡 啓誠/著



提出物、定期テスト、評定平均、部活動、受験勉強、親の時代とは異なる多様な入試形態、SNSとリアルでの人間関係…など、令和の高校生ならではの悩みに助言！

『10代のきみに読んでほしい人生の教科書 豊かに生きるための33のヒント』 肘井学/著



大学に行くと、どんなよいことがあるの？親と仲が悪いのは自分だけ？やりたい仕事は見つかるの？悩みを抱える10代、保護者、かつて10代だったすべての人に向けた令和を「豊かに生きる」ための道しるべ。10代におすすめの本・漫画・映画も紹介！



- ←オーストラリア写真集[オーストラリアのテリガル高校からのプレゼント]
- 『ふしぎ駄菓子屋「銭天堂」』 1~20 廣嶋玲子/著 偕成社
 - 『スープ屋しずくの謎解き朝ごはん』 1~8 友井羊/著 宝島社
 - 『薬屋のひとりごと』 1~15 日向夏/著 主婦の友社